

パネルディスカッション

東近江市が目指す流域政策 —森里川湖から始まる環境基本計画—

滋賀県東近江市市民環境部森と水政策課 課長補佐
山口美知子

皆さま、ありがとうございます。東近江市に今年度の4月にできました、森と水政策課で仕事をさせていただいております山口と申します。よろしくお願いいたします。東近江市の取り組みを少し過去のことも含めてご紹介をさせていただきたいと思います。

実は東近江市はことしで合併10周年を迎えておりまして、1市6町が合併をして大きくなったまちでございます。三重との境の鈴鹿山脈から琵琶湖までということで、真ん中に愛知川が流れておりまして、一つの水系が一つのまちになったということです。嘉田先生からも水でつながるまちということで、かなり特徴的なまちになっていると思っております。

人口がだいたい11万5000人ぐらいということで、工場等も多く、うちのまちの生産額だけでも5400億ぐらいの生産額を上げております。エネルギーを外から買っていて、その金額は330億を超えるというように、大きなお金が動いているということも特徴でございます。

また、私どものまちの財産と思っていることが、歴史文化の中で三つございまして、一つは近江商人「三方よし」の発祥地ということ。また、先ほど大崎さまのお話にもありましたが、遺産です。縄文から始まる歴史的な遺産が大変たくさんございます。もう一つ特筆すべきが「惣村自治」と言われる、地域のことは地域で決めるという空気感です。そういうものが脈々と残っていた地域ということでございます。

そんなまちだったからこそ、実は大変さまざまな分野を越えた人のつながりが、さまざまなプロジェクトを生み出しております。ここに四つ挙げたものはほんの一例なのですが、全国でも大変有名になりました「菜の花エコプロジェクト」の発祥の地でもあります。その中から食とエネルギーとケアの自立ということで具体的な拠点を作られたのが「あいとうふくしモール」。

森林資源の有効な活用と、実際に人と人のつながりを作り直そうということで活動している「kikitoプロジェクト」。また、雑木林が70%あるということで、それを20年以上引きこもっていた若者たちが、薪を割ることで地域に資源として循環させていく。いまこれも実は全国から注目をいただいているプロジェクトなのですが、そんな「薪プロジェクト」というのも東近江から生まれていったものでございます。

こんなふうに、いとも簡単にいろんな分野の方がつながっていくというようなまちがある中で、私どもではいま環境基本計画を見直している最中でございます。そこに掲げたいと考えている基本方針を少しフライングで皆さまに資料でお配りさせていただきました。

とにかく統合的アプローチです。環境省も、自然共生、低炭素、循環、それぞればらばらの

部署で進めてきた。それを何とか一つにしてほしいということで提案をしております。その中で私たちは当然、歴史文化、人の生活、経済も含めてその中に取り込んでいこうと。それらが一つに融合した地域というのが理想的でなければ地域の方々は豊かに暮らせないのではないかとということで、その概念を整理をしたのがこの右側の図です。持続可能な社会を作っていくと、世界中が提唱している理論そのものです。それを東近江の中でしっかりと具体的な現場で担保していこうというのが、いま現在東近江でチャレンジしている内容になります。

絵にするとこんな感じです。鈴鹿山脈には実はイヌワシの営巣地がございます。先ほども言いました、真ん中を愛知川が流れて琵琶湖に注ぐと。日本遺産になりました、伊庭の内湖等がこの辺りにあるということです。私も最近、いろいろヒアリングをしてみてよく分かったことが1点ありまして、愛知川の集水域は、実はそんなに広いほうではないのです。

ご存じの方も多いと思いますが、ここには広大な湖東平野という平野が広がっておりまして、琵琶湖総合開発のおかげでたくさんの農地が整備されました。大変大量の水が要るということ、愛知川の上流にはダムが作られました。ですけれども、ダムができる前にはかなり水に苦勞されていた。その水との関わりでこのエリアというのは行政区を越えて昔からつながっていたのです。永源寺の神社へ八日市の集落の皆さまがいまだにお参りに行かれます。そういう歴史をもう一度紡ぎながら、本当に目指すべき地域像というものを作っていききたいというのが、いま現在やっている取り組みであります。

森と水政策課で、一体何からやろうかという話になりまして、一つは森林資源の賢明な利用を実現しようということで、広葉樹の有効利用をするために家具材として活用するというようなことをやらせていただいております。

また、人と自然のつながり再生ということで、やはり愛知川を何とかもう少し魚が戻る川に戻したいということで、さまざま勉強会やシンポジウム等を開催させていただきました。実は現在、環境省が「つなげよう支えよう森里川プロジェクト」という運動を全国に展開しておりまして、東近江はいち早くそれに賛同させていただいて、その中でもさまざまな連携の中で知恵を貸していただきながら具体化していきたいと思っているところです。

いま現在、議会中なわけですが、先ほどの日本遺産の話もありましたが、森林から湖まで大変豊かな自然資本を持ちながら、もう少し有効に活用できないかということで、来年度からエコツーリズムの推進をしたいというふうに考えております。交流人口を増やすというだけではなくて、私どもが一番狙っているのが、地域の皆さまがそれに気付いて、自分たちの地域に誇りを持っていただくということにつないでいきたいというふうに考えております。

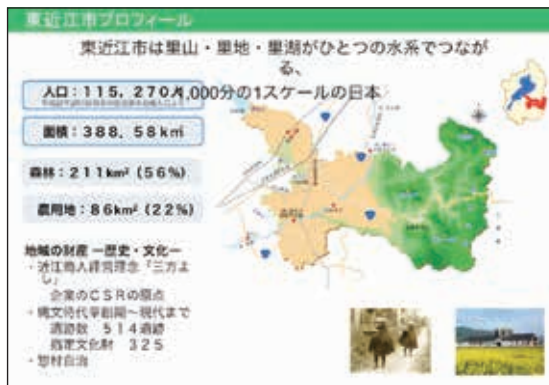
もう一つ大切な仕組みとして思っておりますのが、ファンドです。何をやるにもお金がいる。市内に5400億ものお金が動いている中で、もう少し地域に貢献できるお金を増やせないかということで、基金を作ろうということで半年ぐらい検討させていただきました。

実は龍谷大学の政策学部の皆さまに大変ご協力をいただきまして、3月30日、能登川コミュニティセンターでキックオフのフォーラムをさせていただきます。環境基本計画に定めますこの基本方針それぞれに、ファンドを創設していくぐらいの気概でやろうと、いま気持ちだけは前向きにみんな頑張っているところでございます。

徹底的に住民参加をしていただくことで理想像を実現化していく可能性を上げようというようなことも同時進行で進めておりまして、町の姿を研究者の皆さまはいつも数字で表されます。ですが、数字だけを見せられても、何がどこまでどうなったのか住民の皆さまはよく分からな

い。その生活実感に近い指標を自分たちで置きましょうということで、取り組み指標を設定しながらその進捗管理を住民参加でやっていこうという仕組み作りを、いま地域の皆さまと一緒に作っているところです。これも環境基本計画の中に盛り込んでいくことになっております。

とにかく、私たちのまちでは人と自然のつながりと、人と人のつながり。この両方をきっちりリンクさせていくということの中で、理想的なまちを実現していこうというふうに考えて活動しているところです。以上になります。



具体策2) 人と自然のつながり再生

愛知川をシンボルとした水とのつながり再生

1 目指すところ
水(河、ため池、湖)に、人の関わりを増やし、結果として、水を含む森への関わりを増やしていくことも目指す。

2 方向性
・まずは環境を把握することから始める中で、望ましい愛知川の将来像を描く。
・水に関しては、「治水・利水・治水・安水・環境」など、各分野にわたる人・組織と連携できる関係性を築いていく。
・検討を進める中で、行政がすべきこと、市民がからこできること、すぐにできること、時間がかかることなどを整理していき、施策に反映させる。
・専門的知識をもった施設で専門家に意見を聴き、実現性を高める。

3 具体策
・シンポジウム開催9月6日
愛知川を巡らす！ 森と水のつながり
～地域再生と続く世代の未来を拓く～
・参加型自然観察会
つながりシリーズ「熱度から琵琶湖まで」スタート！
第1期 8月10日「愛知川の今を知る」
講師 愛知川清流会 田中 源さん
「つながりよう、ええよう森里川湖」プロジェクトに愛知県市が賛同を表明

今後の取組1) 地域資源を活用したエコツーリズムの推進

●本市は古くから琵琶湖山脈から琵琶湖までの多様な生態系が有する自然資源を持続的に活用することによって、豊かな生活と多様な文化などの地域価値を育んできた。
●ところが近年、その多様な自然資源に対する認識が薄れたことにより、生物多様性の低下や美しい自然景観の崩壊が生じてきている。
●この自然資源をはじめとした地域資源を再評価し、活用する仕組みの一端として、本市の自然や文化などの地域資源の健全な存続と、観光業の成功および地域の経済発展を図ることの両立を目的に、

1 地域資源の調査・保全・活用
2 エコツーリズムの振興
3 地域住民の誇りの醸成

今後の取組2) 環境活動を支える資金調達の仕組みの構築

●人口減少、高齢化社会では、行政の財源の減少により環境活動を税金だけで行うことが限界に達している。しかし、環境活動を社会連携だけで解決することもできない。
●このため、環境活動を支える資金調達の仕組みを構築する。
●重点プロジェクト会議を4回開催して策定。

1 環境活動の活性化による環境保全
2 社会的投資の促進
3 環境を支える市民の育成

今後の取組3) 市民による評価指標、進捗管理の仕組みの構築

●本プランの将来像を実現するためには、市民・事業者・行政との協働が不可欠である。
●このため、将来像の実現に向けた様々な取組を評価する指標と進捗管理の方法を、学識経験者、市民、事業者の代表で構成する「東近江市環境市民会議」で構築する。
●評価指標は市民会議の「ものさし」で、様々な取組・施策により、将来像に近づいているかどうか実態であるものを決定する。この評価指標をもとに、市民による進捗管理のしくみを構築する。
●環境市民会議の開催に際しては、

1 市民参加による進捗管理による環境改善
2 グリーン成長の振興
3 進捗管理への参加によるモチベーションの向上

まとめ

人と自然のつながりをベースにした、人と人のつながりの創出
＝森里川湖のつながりを生かした、分野・世代・地域をこえるつながり創出

●評価指標、進捗管理
プランの実現を評価する指標、進捗管理の仕組みづくり

●環境を支える市民の育成
活動を支える東近江ブランド、エコポイント制度、地域資源、市民組織など

森里川湖のつながり
～森おこし・川おこし・湖おこし～

地域の自然と人とのつながり

地域の人と人とのつながり

分野・世代・地域のつながり
～食・エネルギー・ケアの自立～

●人材育成・次世代育成
森林整備に競争する人材、農業に関わる人材、緑地整備に関わる人材などの育成